

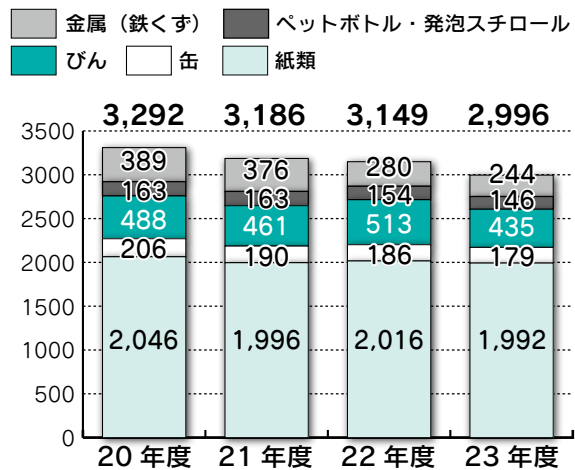
## 資源ごみの売却実績

〔図2〕と〈表2〉は資源ごみの売却量と売却金額の推移を表しています。

22年度と比べると、23年度は売却量が153トン（約4.9%）減少しています。また、売却金額は398万円（約6.9%）減少しています。

なお、売却量が年々減少しているのに対して、売却金額に増減があるのは、引取価格を入札で決定しているためで、市場取引価格により大きく変動します。

〔図2〕 資源ごみの売却量の推移（単位：トン）



〈表2〉 資源ごみの売却金額の推移（単位：万円）

	紙類	缶	びん	ペットボトル・発泡スチロール	金属類（鉄くずなど）	合計
平成20年度	3,872	1,591	104	577	1,100	7,244
平成21年度	1,776	862	110	441	945	4,134
平成22年度	2,766	1,268	84	681	954	5,753
平成23年度	2,223	1,282	47	803	1,000	5,355

## ごみ処理経費

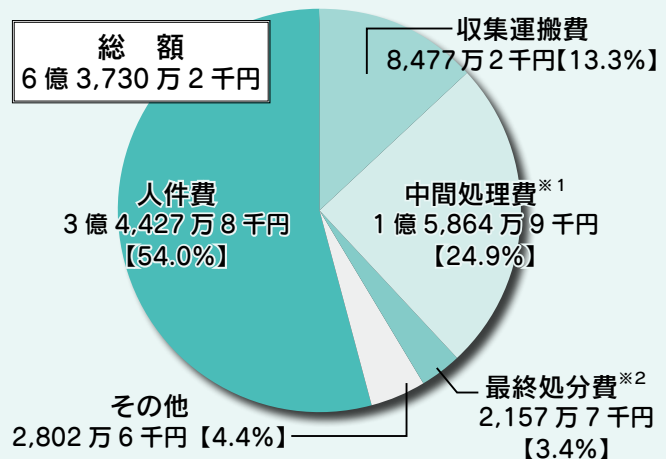
平成22年度のごみ処理経費は約6億3,730万2千円で、内訳は〔図3〕のとおりです。これは1世帯当たり約22,500円、1人当たりで約9,700円、年間がかかったことになります。また、1トンのごみを処理するのに約21,500円かかったことになります。

現在の焼却施設は、稼働して30年になります。老朽化した施設の整備のほか、収集・埋め立てなどごみを適正に処理するために、維持管理費が必要になります。

最近、燃やせるごみの中に、紙類やペットボトル等が混じっているのが見受けられます。これらを分別することで資源を増やし、燃やせるごみの量を減らすことができます。

燃やせるごみの減量は、すなわち中間処理費の削減につながります。

〔図3〕 ごみ処理費の内訳（平成22年度）



※1 中間処理費…焼却・焼却灰処理など

※2 最終処分費…埋立・不燃ごみ処理委託など

人口	66,157人
世帯数	28,336世帯
年間ごみの排出量	29,715トン

※平成23年3月31日現在